

「問題解決能力の育成」～学習の流れが見える～

全教科での取り組み		●児童の主体的な学習を促し、問題解決の能力を身につけることができるよう、問題解決のそれぞれのステップをていねいに展開しています。 ●教科書紙面から学習の流れや取り扱いの意図が読み取れるよう、学習の進め方を示したページを設けたり、紙面の展開・構成を工夫したりしています。						
国語	書写	社会・地図	算数	理科	生活	家庭	保健	
<ul style="list-style-type: none"> ●2年生以上の各学年冒頭に、課題解決的な学習の流れを示した「国語の学習を進めよう」を設けました。 →2-4上・5・6年各p.6-7 ●各単元を課題解決的に組織し、単元を貫く課題に応じて思考、判断し表現する学習に取り組めるようにしました。 ●単元冒頭に「単元名」(言語活動)と「ねらい」(つけたいカ/◆印の文)を併記し、どのような活動を通じてどのような力を身に付けるのかが明確になるようにしました。→3下p.44, 49等 ●「読むこと」領域のてびきの冒頭では、ねらいに則した活動のめあてとなる「学習課題」(黄色枠の文)を位置付けました。 →3下p.56, 75等 ●単元の学習を振り返る観点、チェックマークを付けて示しました。→3下p.48, 58等 ●国語科で学んだことを他教科等の問題解決に生かすヒントを豊かに提示しました。 ●「ひろがる」 →3下p.59, 121等 ●「言葉の力を活用しよう」 →3下p.178-179等 	<ul style="list-style-type: none"> ●3年以上の基本教材は、硬筆で課題を提示することから導入し、その課題を毛筆で確認し、原理・原則を発見するという学習の流れを作りました。さらに、発見した原理・原則を、ほかの文字にも応用する力を養うよう配慮しました。 →4年p.8-9等 ●毛筆教材の左端に示したインデックスを用いて、書写用語や既習事項を、各児童の課題に応じて確認できる構成にしました。 →4年p.8-9等 ●書写で学んだ知識・技能を生活や他教科に活用する場面を示し、学習の有用性を知らせるようにしました。 ●生活場面への応用教材として、「生活に広げよう」を設けました。→4年p.34-35等 ●他教科と関連する教材には、クリップ型のアイコンをつけました。→5年p.30等 ●他教科で文字を書くときにも書写で学習した知識・技能を生かして書く力を育むよう配慮しました。 →6年p.19等 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題解決的な学習過程を通じて、社会科についての理解や考えを深め、公民的資質の基礎を養う過程を分かりやすく提示しました。 ●1単位時間の内容を1見開きで示すことを原則とし、見開きの左ページ側注欄には、本時の「めあて」とその時間の学習段階を明示しました。 ●各学年に見開きで「学習の進め方」を設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら小単元の学習の進め方を示し、問題解決の流れが分かるようにしました。 →3・4上p.24-25, 3・4下p.6-7, 5上p.20-21, 6上p.16-17 ●「学習問題」をつくった後の段階に、「学習問題について予想しよう」「学習計画を立てよう」という予想と学習計画の場面を適宜示し、見直しをもって問題解決的な学習を進められるようにしました。 →3・4上7, 3・4下41, 5上77, 5下15, 6上29, 6下7等 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年において、新たな問題・課題に対し見直しをもち、既習内容を活用して解決して、最後に学習を振り返るといった一連の学習活動で構成しました。 ●キャラクターの吹き出しや補助発問を必要に応じて設けるなど、分かりやすくていねいな問題解決の学習展開を通して、基礎的・基本的な知識や技能が確実に身に付き、それらの意味や原理なども理解できるように構成しました。 ●問題解決の授業展開やノートづくりの事例を取り上げた「考えよう伝えよう」を設定しました。授業とノートのページを連続させ、算数の毎時の学習の流れが分かり、学び方が身に付くように工夫しました。 →2下p.43-47, 3上p.13-17, 4上p.31-35, 5上p.19-23, 6年p.29-33等 ●「考えよう 伝えよう」は、授業づくりの参考にしやすいように、各巻の前のほうのページに設定しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の流れが分かるよう、問題解決の各段階の見出しを大きな文字で示したり、左端に線を入れたりして、教科書のレイアウトを一新しました。 ●問題解決の各段階の記述の仕方を工夫し、それぞれの段階において、問題解決の能力が身に付くようにしました。 ●「問題をつかもう」「予想しよう」「計画しよう」では、児童の主体的な問題解決を通して実感を持った理解がはかれるよう、児童が自ら問題を見出し、見直しをもつことができるようにしました。 ●「考えよう」では、観察、実験の結果を表した表やグラフから傾向を読み取って考察できるようにしました。 →5年p.102, 104, 148 ●「まとめ」(分かったこと)には、「問題」に正対した結論を箇条書きで示し、「考察」(考えたこと)と明確に分けました。 ●「観察・実験」と「結果」「まとめ」は同じ見開きに示さない構成とし、児童が、自分たちが得た結果から考察できるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●低学年児童にとって、身近で切実な問題を解決しながら、自らの思いや願いを実現していく学習活動を充実しました。 ●保健室の冷蔵庫の役割を調べる。 →上p.10-13 ●野菜の成長に合わせて、世話の仕方を考える。 →下p.10-13 ●生き物に適した世話の仕方を考え、用意をする。 →下p.36-39 ●伝えたいことや相手を決め、それらに適した伝え方を考えたり、自分たちで調べ直したりして表現する学習活動を設けました。 ●「つたわる 広がる わたしの生活」 →下p.77-85 ●学習活動の展開に即して活用できるよう、情報の集め方、整理・分析の仕方、まとめ方など、問題解決的な学習における「学び方」を、下巻巻末にまとめて掲載しました。 ●「べんりてちょう」 →下p.103-121 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭科での学習の全体の流れが分かるように、ガイダンス「家庭科を学ぼう」を設定しました。ここでは、家庭科の学習では生活の中から課題を見つけること、それを生かして生活をよりよく工夫することの大切さを説明しました。 →p.4-5 ●すべての大題材を、「1見つけよう」→「2計画しよう・活動しよう」→「3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで構成し、教科書の流れに沿って学習することによって、生活の中から課題を発見し、基礎・基本の知識・技能を身に付け、学習内容を生活に生かすという問題解決的な学習ができるようにしました。 →教科書全体 ●生活経験の有無にかかわらず、だれもが課題意識をもつことができ、問題解決的な学習をうながすことができるよう、「Do!活動」を設定し、ここでは、それぞれのステップで具体的にどのような活動を行ったらいかがを示しました。 →教科書全体 	<ul style="list-style-type: none"> ●全巻・全学年にわたって、児童の主体的な学習を促し、課題解決の力を育てる紙面構成にしました。 ●「学習の課題」を単元の冒頭で明示しました。 ●主な学習活動は、「学習活動」のマークで統一するとともに、活動内容を言葉で明記することで、学習の流れと活動内容がひと目で分かるようにしました。 ●授業のハイライトとなる場面に、学習した知識をもとに、思考・判断・表現する活動「活用して深めよう」を設けました。 ●「活用して深めよう」では、記入欄を設け、自分の考えを文章で表現するようになりました。 	